

graduation

3年間ありがとうございました

森田さんと安井さんが地域おこし協力隊を卒業

平成27年11月から本町の地域おこし協力隊として活動していた森田明大さん(31=中里2)と安井佳奈さん(26=中猪)が10月31日で3年間の任期を終え、新たな一步を踏み出しました。

多くのつながりに笑い合えた3年間、これからも湯前で笑いたい

湯前の人の温かさにほれて地域おこし協力隊になることを決めた3年前。今日まで、保健福祉・タブレット講座・広報・社会体育などの活動をしてきました。湯前に来た当初「まずは顔だけでも知ってもらえれば」と思っていたのですが、実際に活動してみると広報や新聞を見て「よそから来た人よね〜？」と私が自己紹介する前に、たくさんの人に声をかけてもらいました。

これまでやってきた体育・福祉・ICT(情報通信技術)などは、それぞれ全く違う分野だと思っていましたが、どの活動も町の人との関わりが深くなければいけないことだと気づきました。活動していると、いろんなところで声をかけてくださることがたくさん。そのたびに、湯前に来て良かったなと感じました。

「安井ちゃん」「かなちゃん」「柔道の人」など、湯前に来てからいろんな名前と呼ばれるようになりました。3年間の活動でたくさんの人と関わり、助けられ、笑わせてもらいました。これからも湯前で楽しく笑って過ごしたいと思います。3年間ありがとうございました。



かな
安井 佳奈さん(26=中猪)

Profile

兵庫県出身。龍谷大学柔道部(京都府)に所属し、合宿で来町。人の温かさに魅力を感じ湯前への移住を決意。情報発信や体育、福祉などを担当した。柔道クラブで指導。青年団員としても活動。持ち前の笑顔でたくさんの住民を笑顔にする。



町ぐるみの温かさに感謝、今後も魅力を発信し続けたい

「湯前町地域おこし協力隊」の任期が終わり、今は3年間無事動め上げることができてホッとしています。私は3年前、「のんびりと田舎で子育てをしたい」「近く(錦町)に祖父がいる」という理由で、地域おこし協力隊として湯前に移住することを決めました。湯前を初めて訪れたときは、広がる田園風景に感動するとともに新しい生活への不安を感じました。しかし、町の皆さんがいつも気にかけてくれて、町全体で子育てをしているような感覚に「ここへ来て本当によかった」「ここで暮らしていきたい」と思いました。

私は昨年5月に湯前駅前に設立された「奥球磨スマートタウン研究所」に勤めることになり、今後も町に残ることができるようになりました。これまで活動してきたことを町と協力しながら継続し、もっといろんなことに挑戦していきたいと思っています。湯前の魅力を外へ伝えるには、3年ではとても足りませんでした。今後も町の魅力を発掘して、外に発信していこうと思います。3年間ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

あきひろ
森田 明大さん(31=中里2)

Profile

鹿児島市出身。3年前に妻、真音春さんと息子の春翔くんとともに湯前へ。地域おこし協力隊として主に本町のICT利活用を担当。以前は四国や地元鹿児島で会社員として勤務。趣味は息子と遊ぶこと。



Community ▶

青年団だより

台風などでイベントが中止になり、青年団を見かけることが少なかったと思いますが、団員たちは元気です。寒くなってきましたが、皆さん手洗いうがいを忘れず、元気に過ごしましょう。

9月8日(土)、9日(日) 第54回球青協文化祭 あさぎり町須恵文化ホール

私たちは舞踊、合唱、ダンス、意見発表、のど自慢に出場しました。合唱は人数が少ない中、1位をとることができました。舞踊では2位、展示の部でも多くの作品が入賞しました。来年はどの部門でも上位入賞を目指して頑張ります。

9月17日(月・祝) 社協敬老会 高齢者福祉生活センター湯愛

敬老会では、男女ともに文化祭で披露した舞踊を間近で見てもらいました。見てくれた皆さんに喜んでもらえました。

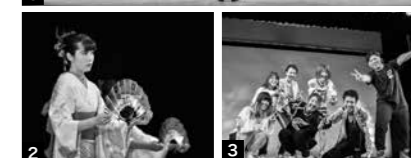
これから

11月3日(土) 町民文化祭 舞踊、バザー 農村環境改善センター

11月11日(日) 漫画フェスタバザー出店 まんが美術館一带



広報部長
森川 未月



1人数が少ない中、1位をとることができた合唱2毎年上位に食い込む舞踊は2位3みんなで協力し、楽しく、笑顔で過ごした文化祭

Smile

ゆのまえがお湯前小学校5年生の皆さん



□ひとこと

「部活動楽しんでます!」

「笑顔がすてき」「何かPRしたい」などたくさんの人を待っています
企画観光課 地域おこし協力隊まで TEL 0966-43-4111

Front Page

今月の表紙

湯前保育園運動会、年長児の親子競技の一枚。親子二人で「デカパン」を履き、コーンまでの距離を往復するリレー。速く走ろうとする園児と、窮屈で思ったように動けない保護者。それを見守る保育士も、みんなが笑顔でした。



編集後記

▼とある物産館に立ち寄りまして、「こんにちは」声をかけてくださったのは下村婦人会の人。そこで私はからし漬けを購入。すると「これも持っていきなさい」とわざわざ自分のお金で商品を買って、私にお土産を持たせてくれました。家に帰って食べたときに、その人の笑顔が浮かんできました。手間暇をかけた手作り真心込めた接客。販売した人や作り手の見える温かい商品でした。からし漬けは焼酎のつまみとしていただきました。うまかった。

▼広報で協力隊のコーナーを担当してくれた安井さんが卒業満点の笑顔と大きな笑い声。礼儀正しさも相まって、町内に彼女のファンがたくさんいます。一緒に取材に行くと、彼女の笑い声につられて、だれもが自然な笑顔になっていました。誌面でも、私たちが普段気づかない魅力や、住民に寄り添ったできごとを独自の目線で伝えてくれました。

写真も取材もメモキキ上達した安井さん。新たなステージでも自分らしさに磨きをかけて活躍してくれることでしょう。私も負けないように頑張ります。

(宏)